

編集後記

今号の原稿募集を案内したのは令和元年の師走。3月末まで原稿を受け付け、7月に教員業績のデータなどを得て、編集作業を進めました。しかし、編集委員会のメンバー、担当事務だけでなく、印刷会社の担当者までもが刷新された状況で、ちゃんと発行できるのか不安だらけでした。少し遅れはしましたが、このたび発行するに至り、胸を撫でおろしています。これも総務担当の川村友香さん、学務担当の下村総大さん、土屋友紀さん、神内未菜美さん、伊藤印刷の近澤泰之さんはじめ、ご協力いただいた皆さま方のお陰で、たいへん感謝いたします。

紀要を発行する意義は、研究科教員による研究活動の広報的な面が大きいと考えます。各分野に特化した研究論文はそれぞれの学会誌やジャーナルに掲載されており、Webで容易に検索され、ダウンロードすれば読むこともできます。一方、紀要は、そのような専門学術誌に掲載されるような論文だけでなく、関連する報告なども掲載するなど、懐の深い点が特徴です。例えば、研究データを取得するための苦労や楽しさなどを紹介する報告もあってよいと思います。このような背景もあり、拙著を投稿することにしました。これ以外にも、新任教員などによる研究紹介など、企画化しなかったのですが、年1回の出版にはなじみにくいように思えます。拙著を反面教師に、より魅力的な論文や報告などの投稿が増えるよう、期待しております。

2020年12月

生物資源学研究科紀要編集委員長(46号) 木佐貫 博 光